様式第６号（第１０条関係）

鳥取県環境学術研究等振興事業費補助金研究実績報告書

研究期間（　２年目/　３年目）

研究者 又は 研究代表者	氏　名	（ふりがな）おおた　たろう 太田　太郎
	所属研究機関 部局・職	公立鳥取環境大学 地域イノベーション研究センター 特命准教授 電話番号0857-32-9105 電子ﾒｰﾙoota-t@kankyo-u.ac.jp
研究課題名	漁業生産現場における創意工夫の発掘と、生産者の顔の見える水産物地域ブランド創出に関する研究	
研究結果	本課題は、鳥取県中部地域で水揚げされる水産物を対象とし、「生物学的情報」、「漁獲方法」、「料理方法」、「生産者の紹介」などの内容を盛り込んだ消費者向けパンフレットを作成し、‘生産者の顔の見える水産物地域ブランド’の創出を試みるとともに、その効果について、アンケート調査等を実施し評価を試みるものである。２年目となる平成２９年度は、平成２８年度に引き続きパンフレット作成に必要な情報を収集するため、下表の通り生産現場の調査を実施した。	

1月：サワラ（酒津）	2月：ウマヅラハギ（賀露）	3月：コウイカ（賀露）
4月：バイ（賀露）	***5月：アジ（夏泊）***	***6月:トビウオ(青谷)***
7月:イワガキ(福部)	8月：白いか（賀露）	9月：シイラ（浜村）
10月:カレイ，ハタハタ(賀露)	11月:マツバガニ(賀露)	12月：ハマチ（泊）

※斜体の月（５、６、７月）が平成２９年度実施分

また、パンフレットに必要な素材を収集後、原案を作成の上、編集作業の方針について関係者（特に漁業協同組合職員等）と協議し、より読者である消費者に親しみやすい内容とする方向で編集作業を進めることとし、以降はイラスト作成を中心とした編集作業を進めた。最終的にパンフレットの内容を関係者と協議の上で確定し、３月に「因幡の海からの贈り物　漁師のおすすめ‘お魚暦（おさかなごよみ）’」を2、000部印刷し、関係者（漁業関係者や行政関係者）へ配布した。

また、平成29年11月には鳥取市賀露町で開催された「鳥取かにフェスタ2017」において、水産物の産地に関する意識について、消費者アンケートを平成30年度の予備調査として行った。

研究成果	平成30年3月に発行したパンフレット「漁師のおすすめ‘お魚暦’」の一部を下図に示す。平成２９年度は３回の乗船調査により漁労作業の写真撮影や漁業者のヒアリング調査を行ったほか、陸上調査（水揚げ現場（市場）、地域イベント、直販店等）も実施した。パンフレットについては、「魚」「獲り方（漁法）」「獲る人（生産者）」をベースとした構成とし、さらに、読み手に親しみやすいものとするため、若者（学生）の意見を取り込み、イラストによる説明を加え編集作業を進めた。 作成したパンフレットについては、漁業関係者や行政関係者へ配布したほか、大学主催の報告会や子供向けイベント等で試験的に配布し「わかりやすい」「今までになかった内容」などの評価の声をいただいている。

<table>
<tr><td></td><td colspan="2">

図　消費者向けパンフレットの一部（表紙と5月（マアジ）のページ）</td></tr>
<tr><td>次年度研究計画</td><td colspan="2">・パンフレットの印刷及び配布
　前年度に作成したパンフレットを増刷し、特に水産物流通関係者（仲買、小売店）等へ配布し、消費者の反応等についてインタビューする。

・消費者向けアンケート調査の実施
　今年度実施した予備調査（かにフェスタでのアンケート）の結果に基づき、質問内容を吟味し、イベント、直売店等でパンフレットを配布し、水産物の産地に関する意識についてアンケート調査を行う。</td></tr>
<tr><td>報告責任者</td><td>所属・職
氏名</td><td>公立鳥取環境大学　企画交流推進課　渡邊 智子
電話番号　0857-38-6704
電子ﾒｰﾙ　kikaku@kankyo-u.ac.jp</td></tr>
</table>

注１）表題には、環境創造部門、地域振興部門、北東アジア学術交流部門のいずれかを記載すること。
　２）「研究期間（　　年目/　　年間））」及び「次年度研究計画」は、環境創造部門及び地域振興部門において記載すること。
　３）研究者の知的財産権などに関する内容等で、非公開としたい部分は、罫線で囲うなど明確にし、その理由を記すこと。
　４）研究実績のサマリーを併せて提出すること。

研究実績のサマリー（平成 29 年度）

鳥取県環境学術研究等振興事業研究計画書（地域振興部門）

漁業生産現場における創意工夫の発掘と、生産者の顔の見える水産物地域ブランド創出に関する研究

公立鳥取環境大学地域イノベーション研究センター特命准教授　太田太郎

我が国における水産業は非常に厳しい現状にあり、この状況は水産業への依存度の高い鳥取県においても同様で、漁業従事者数の減少傾向に歯止めがかからない状態となっている。また、水産資源は有限なものであるという特性上、海面漁船漁業については、漁労技術の革新が進んでも、漁獲量（生産量）の増大は期待し難く、将来的にも変動を繰り返しながらも頭打ち状態が継続するものと見込まれる。このような中、水産業を持続可能な産業とするための課題として「魚価対策」が注目をされている。鳥取県でも「岩がき⇒夏輝」、「松葉がに⇒五輝星」などのブランド水産物を創出し、漁業者はこれらの取り組みに一定の効果を感じ始めている。一方、水産物はその複雑な流通形態が故に、消費者に生産の過程が伝わりにくい傾向がある。本課題は、鳥取県中部地域で水揚げされる水産物を対象とし、消費者向けパンフレットを作成することによって‘生産者の顔の見える地域ブランド’の創出を試み、さらに、その効果について、アンケート調査等を実施し評価を試みるものである。

平成２８年度には、パンフレットに採用する魚種について、鳥取県漁協職員を中心とした鳥取県中部地域水産業再生委員会の事務局メンバーと協議し、以下の通り魚種を選定した。

1 月：サワラ（酒津）　2 月：ウマヅラハギ（賀露）　3 月：コウイカ（賀露）
4 月：バイ（福部→賀露に変更）　5 月：アジ（夏泊）　6 月：トビウオ（青谷）
7 月：イワガキ（福部）　8 月：白いか（賀露）　9 月：シイラ（浜村）
10 月、11 月：沖合底びき網魚種（マツバガニ他：賀露）　12 月：ハマチ（泊）

平成２９年度は前年に引き続き生産現場の調査（乗船調査：５～７月分）により漁労作業の写真撮影や対象となる漁業者のヒアリング調査を行ったほか、陸上調査（水揚げ現場（市場）、地域イベント、直販店等）も実施した。パンフレットに必要な素材を収集後、原案を作成の上、編集作業の方針について関係者と協議し、より読者である消費者に親しみやすい内容とする方向で編集作業を進めることとし、以降はイラスト作成を中心とした作業を進めた。最終的にパンフレットの内容を関係者と協議の上で確定し、平成 30 年３月に「因幡の海からの贈り物　漁師のおすすめ‘お魚暦（おさかなごよみ）’」を 2,000 部印刷し、関係者（漁業関係者や行政関係者）へ配布した。

また、平成 29 年 11 月には鳥取市賀露町で開催された「鳥取かにフェスタ 2017」において、水産物の産地に関する意識について、消費者アンケートを平成 30 年度以降の予備調査として行った。

平成 30 年度は今年度に作成したパンフレットを増刷し、特に水産物流通関係者（仲買、小売店）等へ配布し、消費者の反応等についてインタビューする。また、水産物の産地に関する意識についての消費者向けアンケートについては、今年度実施した予備調査（かにフェスタでのアンケート）の結果に基づき質問内容を吟味し、イベント、直売店等でパンフレットの配布と合わせ、調査を行う予定としている。